



広安里

発行 釜山日本人学校

釜山広域市水営区民楽洞173-8

TEL 051-753-4166

FAX 051-756-4851

<http://user.chollian.net/~pusjpnsc>平成
16年度
第2号

「子女教育雑感」

PTA会長

篠原 弘明

「よく学び、よく遊べ」。私の学齢期の頃を振り返った時、担当の先生がよく仰っていたその言葉が今でも思い起こされます。

しかし、私は徳島県の田舎育ち。周りは殆ど田圃と畑の世界。当時は、近くに学習塾や書店さえなかった。一方で、頭を動かすよりは体を動かすことの方が得意な私は、小学校時代には少年野球チームに入り野球三昧の生活を送った。中学校ではバスケット・クラブに入り、3年間をクラブ活動を中心に費やした。従って、私自身の学齢期は、「よく学び、よく遊べ」との先生の言葉とは全く縁遠いものでした。そのため、担当教師が厳しかったため人並みに勉強した英語を除いた私の成績は当然のことながら芳しくなく、国語に至っては、高校に入る以前まで読書らしい読書をしたことが無かったためその成績は悲惨でした。そのため、自分には文才が無いとの学齢期に受けたトラウマを今でも引きずっています。

このような私自身を振り返り、二人の子供を学校に通わせるこの年齢になって、我が子の教育に関し、最低限自分の轍を踏ませないよう気を付けていることが二つ程あります。

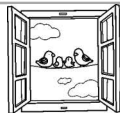
一つ目は、読書の習慣を身に付けさせる

ことです。読書は様々な主人公との出会いや世界を見ることを通じ心豊かにさせ、また、自己表現力や思考力、知識を養ってくれる等子供の育成において不可欠な効果が期待されます。そのため子供には色々な本を与え、自らも子供が本に関心を向けるよう絵本を読んだり、自分が本を読む姿を意識的に子供に見せるようにしています。

二つ目は、この国際化時代に対応できるよう、外国語を早期に身に付けさせることです。成人してから外国語をマスターするのは至難の業です。柔軟な頭を持つ今、言葉を実感的に楽しみながら身に付けられるようインターネット上の語学プログラムを毎日聞かせることにしています。

我が子が健やかに育ち、そして、幸せな社会生活を営めるようになることは親の願いであり、その礎を築くのを手伝うのが親の務めであると思います。しかし、その手段として子供に指図するだけでは子供はついてきません。子供は親を見て育ちます。親は子供の手本となります。ですから、自分としても、自分を高めるための努力を惜しまず、その姿を子供達に見てもらおうということを通じて、子供の成長に少しでも役に立てる親になればと思っています。

学校の窓



「挨拶」こんな話を聞いたことがある。植物に毎日声をかけたり、手で触れたりして育てると、元気に育ったり、きれいな花が咲いたり、大きな実がなったりするという。もちろん何も植物だけの話ではなく、犬やネコに限らず動物たちに対しても、優しい温かい言葉かけによって、こちらの気持ちが十分に伝わることはいうまでもない。さて、

私達人間にとってはどうだろうか。誰もが「身近な人と人間関係をよくしたい」

と思っていることは間違いないのだが、それが十分に果たせない場合もある。

その理由としてはお互いに挨拶ができなかったり、相手の気持ちを配慮しない言葉によって傷つけ合ったりすることなのだろうと思う。普段の言葉のやりとり、眼差しや態度にその人の心遣いがでるのだが、いつも変わらない明るい笑顔と思いやりの言葉そして挨拶が大

切で、それが人と人をつなぐ架け橋になるといえる。

「挨拶」の「挨」は「開く」、「拶」は「近づく」という意味がある。従って、「挨拶」をするということは自分から心を開いて相手に近づいていくことで、お互いの人間関係をよくすることになる。「挨拶」でその人のよさを見つめることができた、相手から受ける元気さ、明るさ、優しさ等が自分の成長につながったりすると何よりだと思ふ。

